

福祉委員活動実績集計結果報告

○福祉委員活動調査の概要

1. 調査目的

福祉委員の活動について把握し、今後の活動に生かすために実施しました。

2. 調査概要

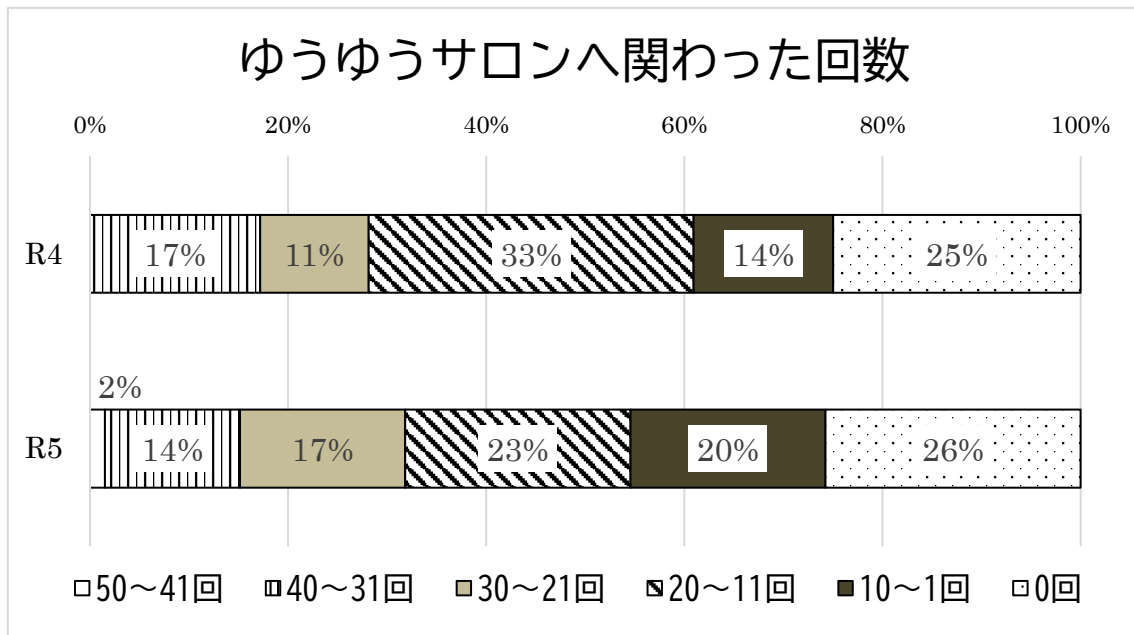
- ・調査対象者：令和5年度の福祉委員66名
- ・調査期間：令和6年4月～8月
- ・調査方法：郵送配布、回収は郵送及び来館

3. 回収結果

- ・回収率：100.0%(11月1日現在)

4. 報告書の見方

- ・集計の対比に関しましては、令和4年と令和5年度となっております。
- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第1位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。



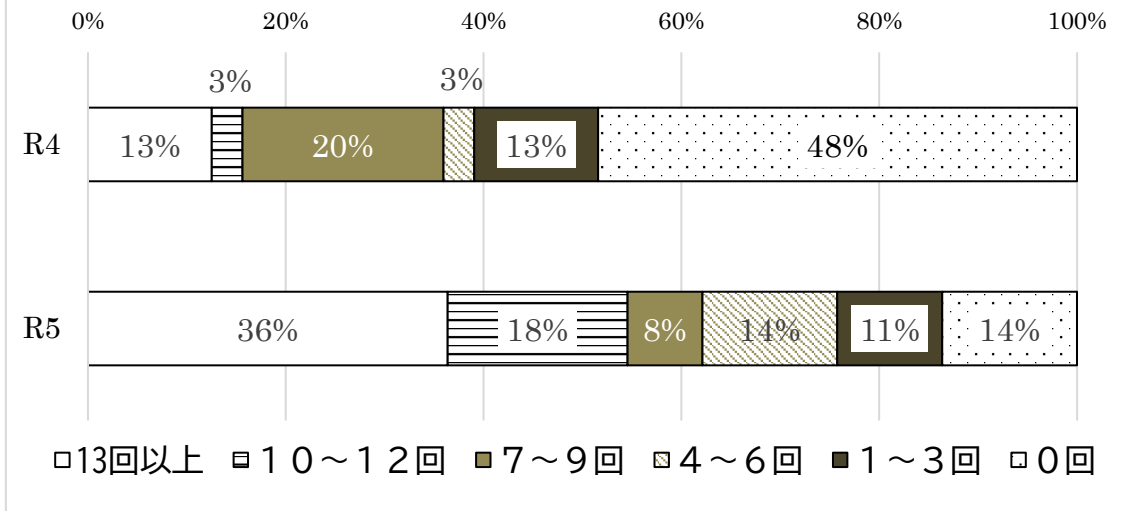
ゆうゆうサロンについて、関わったと回答された方は76%で、R4度とほぼ変化はなく、引き続き多くの方々に関わっていただいていることがうかがえます。

「コロナ明けということもあり、昼食を月一回行い、皆さん楽しそうだった」「5月よりお弁当が始まり、午後はゲームやおしゃべりで皆さん『楽しかった』と喜んで帰られる」など、コロナ禍が終わり、一日楽しめるサロンの運営をされていることが分かります。

「昼食を長い間できず、その間に膝に問題を抱える人が増えたため、椅子用卓を購入してもらった」「猛暑だった6・7・8月は月1回、冷たい飲み物ゼリー等を配布した。自転車や徒歩で公民館まで来られ、大変喜ばれた」と、皆さんで工夫しながら運営されていることがうかがえます。

「地域の方と顔見知りになり、体操をすることで自分自身の健康管理になったと思う」「寒い中、軽装でいらしたため、民生委員にお知らせした」「活動で音読を取り入れたが、高齢者には億劫で『来たくない』という気持ちになることが残念」との声もありました。

高齢者見守り活動

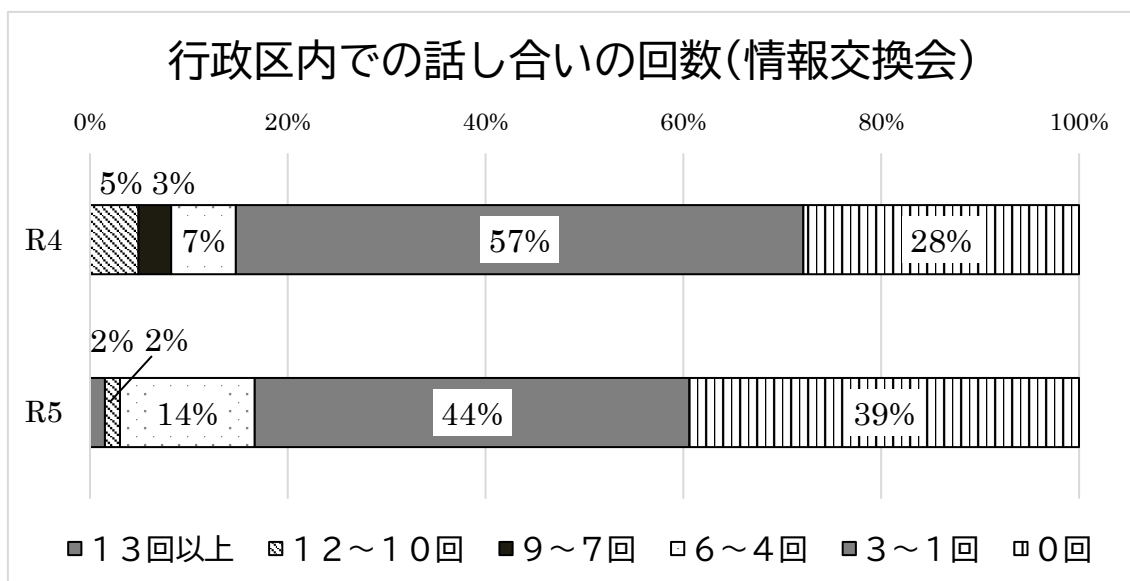


高齢者見守り活動については、令和5年度に活動したと回答した方が87%で、令和4年度に比べ大幅に増加しているのが分かります。コロナ禍が終わり、活動を実施される方が増えたと思われます。

「たよりあいを通じて担当地区の方とお話をして、顔見知りの関係ができてきた」との声があり、たよりあいが皆さまの集まるきっかけとなり、役立っているようです。

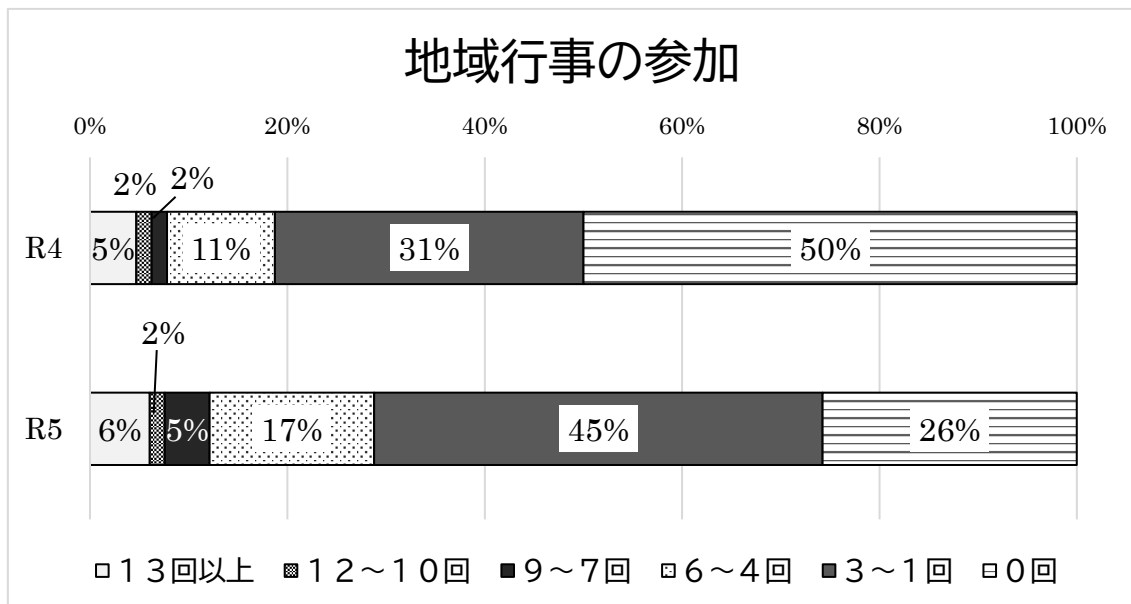
「民生委員と一緒に見回りを行い、重要なことは動いていただき助かった」
 「訪問先の方が調子を崩され、近所の方から相談を受けた。すぐに民生委員さんと連絡を取り、ケアマネージャー等に来ていただき、入院となった」と民生委員さんと連携を図りながら、取り組まれていることが分かります。

「しばらくあの人には会っていないと思うと心配し、自然のコミュニケーションがとれはじめた」「話相手が欲しいのか、随分お話される方がいる」「ゆうゆうサロンに誘うが、なかなか難しい」との声もありました。



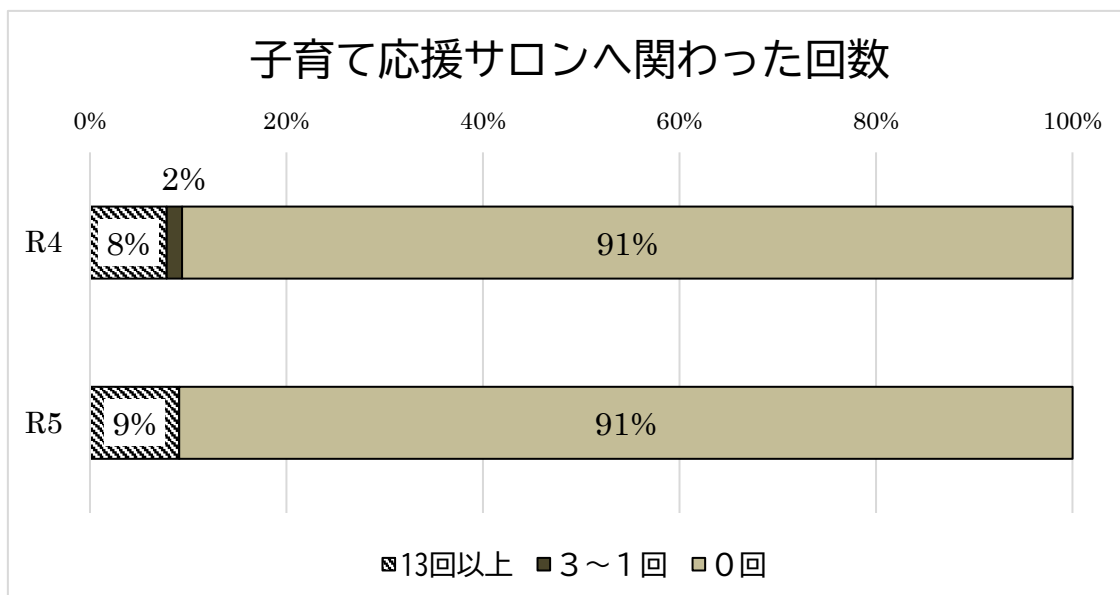
行政区内での話し合いの回数につきましては、参加していると回答された方は昨年よりも減少しています。

「使いやすい長机をお願いしていたら、新区長が早速動いてくださり、購入が決まった」「福祉委員とボランティアさんとの集会で、有意義な時間を過ごすことができた」との声がありました。



地域行事の参加に関しまして、令和5年度は75%の方が参加されており、令和4年度と比べて増加しています。「コロナ禍が過ぎ、区の行事も徐々に再開してきた」と、地域の行事が再開されているようです。内容は町民運動会、七夕、夏祭り、敬老会、秋祭り、餅つき大会、地区防災組織発足会の参加などがありました。

「子ども会の餅つき大会で、高齢者とも話ができた」との声があり、行事は幅広い世代の交流・見守りの場となっていることがうかがえます。



子育て応援サロンに関しましては、昨年とほぼ変化はなく 1 割の方が参加されています。

コロナ禍が終わり、ゆうゆうサロンや行事が再開され、対面での訪問も増えているようです。

また、災害時や緊急時の独居の方への対応について考えられているようです。